

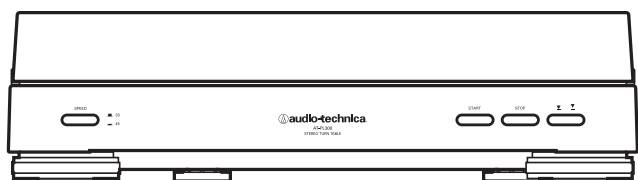
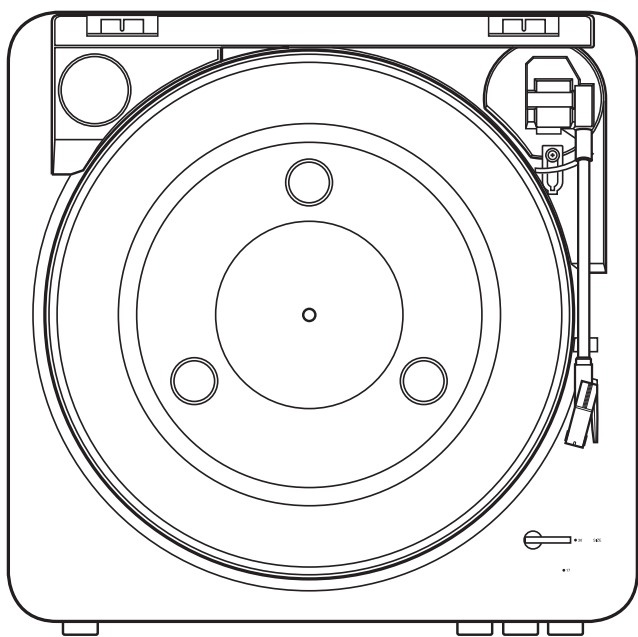
取扱説明書

 audio-technica

お買い上げありがとうございます。本製品をご使用いただく前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。
また取扱説明書は保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

ステレオターンテーブルシステム

AT-PL300



CONTENTS もくじ

安全上の注意	1
準備 1. 内容物を確認する	2
2. 各部の名称と機能	3
3. 組み立てかた	4
4. 接続のしかた	5
操作 演奏のしかた	6
針交換のしかた／ベルト交換のしかた	7
故障かな?と思ったら	8
テクニカルデータ／アフターサービスおよびお問い合わせ先	9

安全上の注意

本製品を安全にご使用いただくための注意事項です。使いかたを誤ると事故が起こることがあります。ご使用前に必ずお読みください。



警告

この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。



注意

この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が損害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。



警告

- 異常に気付いたら使用しない
異常な音、煙、においや発熱、損傷などがあつたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または当社のサービスセンターに修理を依頼してください。
- 分解や改造はしない
感電、故障や火災の原因となります。
- 強い衝撃を与えない
感電、故障や火災の原因となります。
- 濡れた手で触れない
感電やけがの原因となります。
- 水をかけない
感電、故障や火災の原因となります。
- 本製品に異物(燃えやすい物、金属、液体など)を入れない
感電、故障や火災の原因となります。
- 布などでおおわない
加熱による火災やけがの原因となります。
- 同梱のポリ袋は幼児の手が届くところや火のそばに置かない
事故や火災の原因となります。
- AC100V以外の電源は使わない
(日本国内専用)
加熱による火災やけがの原因となります。
- コードは伸ばして使用する。針などでの固定や束ねたままでの使用はしない
加熱による火災やけがの原因となります。
- 電源プラグをコンセントに差し込むときは根元まで確実に差し込む
加熱による火災やけがの原因となります。
- コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする
断線、故障の原因となります。
- コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない
断線、故障の原因となります。
- 電源プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る
加熱による火災やけがの原因となります。



注意

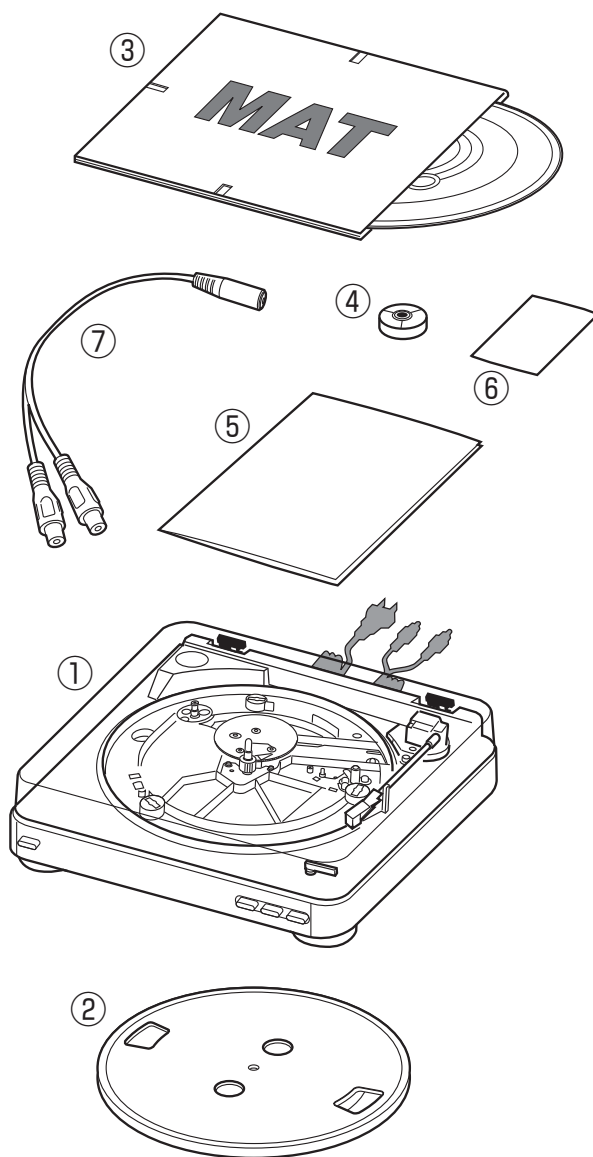
- 不安定な場所に設置しない
転倒などによりけがや故障の原因となります。
- 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない
故障、不具合の原因となります。
- 火気に近づけない
変形、故障の原因となります。
- ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない
変形、故障の原因となります。
- 長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く
- 足に引っかかりやすい場所にコードを引き回さない
故障や事故の原因となります。

使用上の注意

- ダストカバーを閉じる際は、完全に閉じてください。また、演奏中はカバーを開けないでください。
- 本製品を移動する際は、電源プラグをACコンセントから抜き、接続コードを外してトーンアームをビニタイなどで固定し、開梱時と同じ状態にしてから行なってください。

1. 内容物を確認する

本製品を開封したら、組み立て作業に入る前に以下の付属品がそろっているかをご確認ください。



- ①本体
- ②ターンテーブル(ドライブベルト付)…×1
- ③ターンテーブルシート…×1
- ④EPアダプター…×1
- ⑤取扱説明書(本書)…×1
- ⑥保証書…×1
- ⑦変換コード(0.17m/φ3.5mmステレオミニプラグ⇄ステレオピンプラグ)

2. 各部の名称と機能

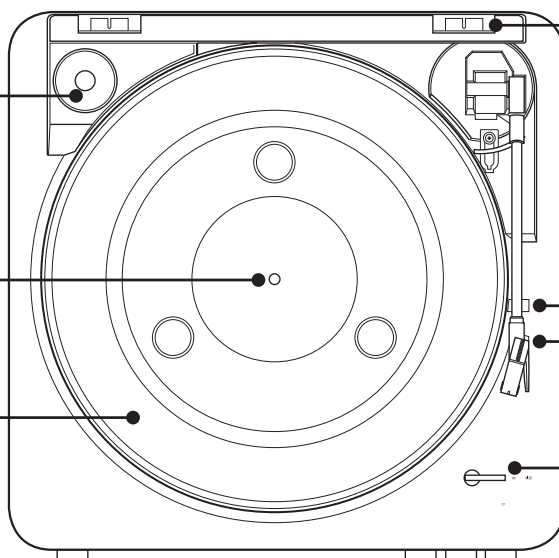
本製品の各部には以下のような名称と機能があります。

天面

**EPアダプター
/専用スペース**
EP盤を再生する際、
スピンドルに差し込みます。

スピンドル
ターンテーブルの中心軸。

ターンテーブルシート
ターンテーブルに敷き
レコード盤が滑らないよう
また、傷がつきにくいようにします。



ヒンジホルダー
ダストカバー後面のヒンジを
差し込みます。

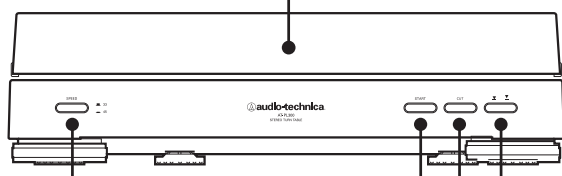
アームレスト

トーンアーム/カートリッジ
先端にレコード針が取り付けられ
レコード盤の溝をトレースします。

サイズセレクター
レコード盤の大きさにより、
30・17cmに切り換えます。

前面

ダストカバー



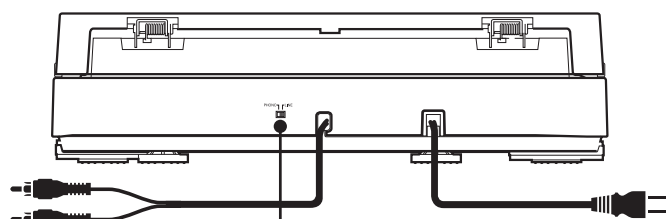
回転数セレクター
レコード盤の回転数により、
33・45回転に切り換えます。

スタートボタン
このボタンを押すとターンテーブルが回転し、
トーンアームが移動します。

カットボタン
このボタンを押すと
トーンアームが元の位置に戻り、
ターンテーブルが停止します。

アームボタン
このボタンを押すと
トーンアームが上下します。

背面



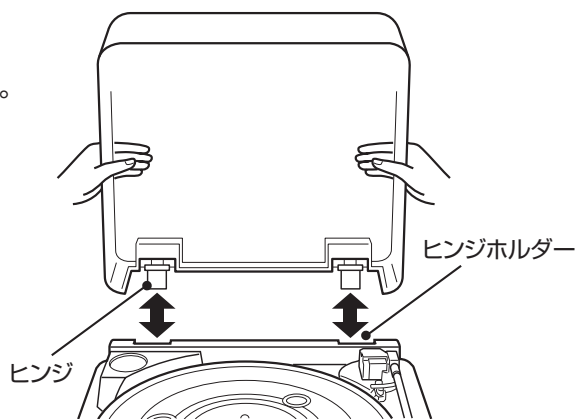
ピンコード

電源コード

PHONO/LINE切換スイッチ
接続機器の仕様により、このスイッチを切り換えます。
※詳しくは5ページをご覧ください。

ダストカバーの外しかた

ダストカバーを開き、ヒンジから上に持ち上げると取り外せます。
取り付ける場合は、ダストカバー後面の差し込み口を
ヒンジホルダーへ差し込んでください。



3. 組み立てかた

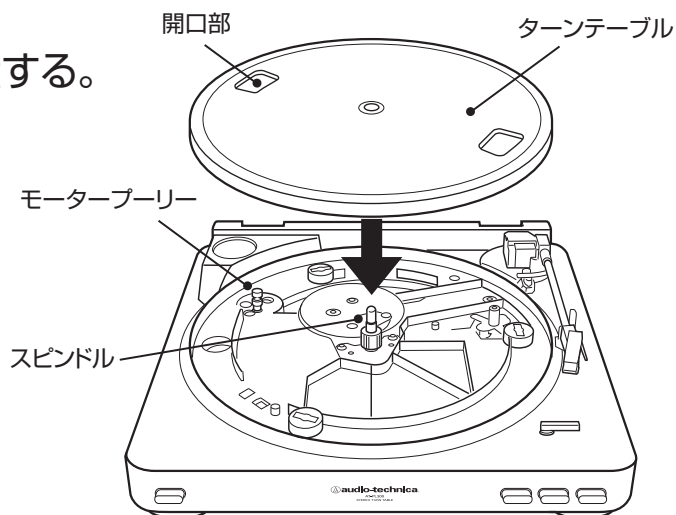
レコードプレーヤーはとてもデリケートな機械です。平らな場所で組み立て、無理な力を加えないようご注意ください。

1 ターンテーブルをスピンドルに合わせて設置する。

ターンテーブルの中心の穴をスピンドルに合わせて設置します。

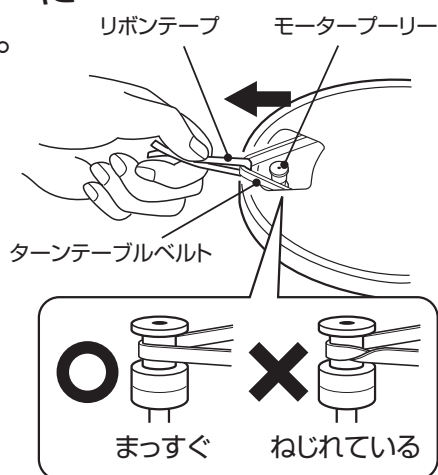
⚠注意

ターンテーブルを落下させないようにしっかりと持ちください。けがや本製品の故障の原因となります。

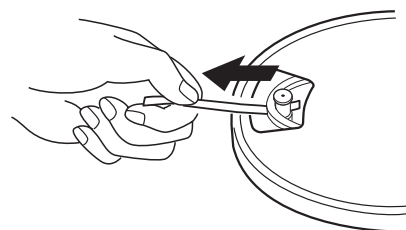


2 モータープーリーにベルトを掛ける。

開口部をモータープーリーに合わせ、あらかじめベルトに取り付けてある、赤いリボンテープの両端を引っ張りながら、図のようにモータープーリーにベルトを掛けます。その際、ベルトがねじれないようにご注意ください。



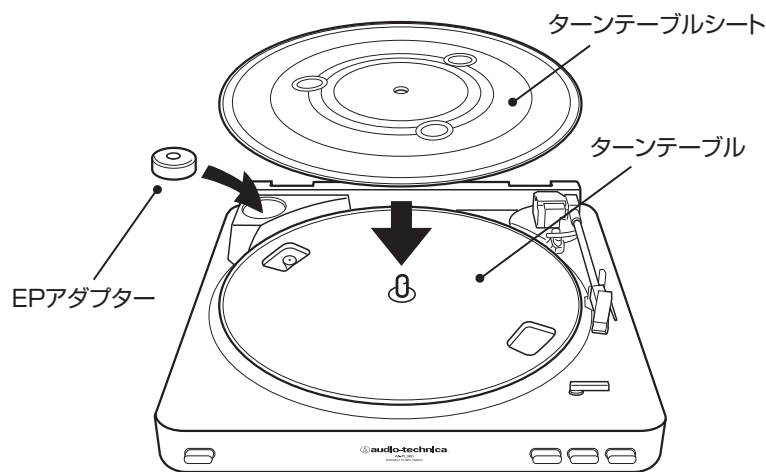
その後、ベルトからリボンテープを引き抜きます。



3 ターンテーブルシートをターンテーブルに敷く。

ターンテーブルシートのセンター穴をスピンドルに合わせて敷きます。その後、EPアダプターを左上の専用スペースに設置します。

※ターンテーブルシートは梱包箱の“MAT”と記入された段ボールの間にはさんであります。



4. 接続のしかた



注意 本製品を接続する前に必ず、接続機器(システムコンボやアンプ、パソコンなど)の電源を切ってから接続してください。電源が入っていると本製品や接続機器の故障の原因となる場合があります。

1 接続機器に合わせて背面のスイッチを切り換える。

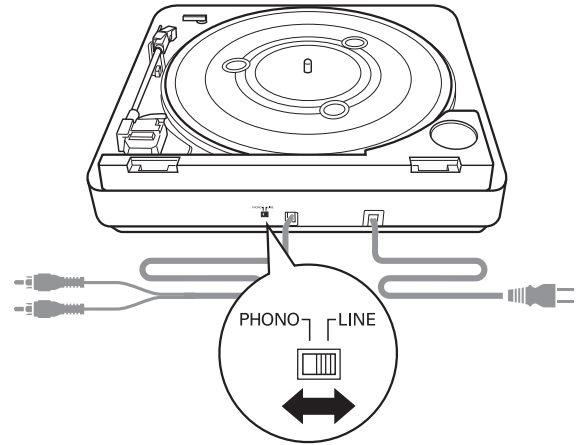
本製品にはフォノイコライザー機能※が内蔵されています。接続機器に合わせて背面のスイッチを切り換えてください。

A 接続機器にPHONO入力がない場合

接続機器にPHONO入力がなく、AUX(LINE)端子などに接続する場合はスイッチをLINE側に切り換えます。
*フォノイコライザー機能はオンになります。

B 接続機器にPHONO入力がある場合

接続機器(アンプなど)にPHONO(フォノ)入力があり、その端子に接続する場合はスイッチをPHONO側に切り換えます。
*フォノイコライザー機能はオフになります。



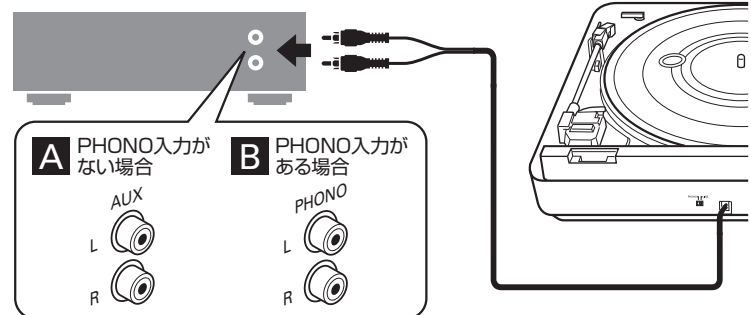
※フォノイコライザー機能とは、アナログ特有の録音方式を変換する機能です。

2 ピンコードを接続機器のPHONO端子またはAUX(LINE)端子に接続する。

ピンコードの赤いプラグ(R)を接続機器の右チャンネル(R)、白いプラグ(L)を左チャンネル(L)の入力ジャックに、それぞれしっかりと差し込んでください。

接続機器にPHONO入力端子がないときは、AUX(LINE)端子などに接続してください。

●接続機器背面(アンプなど)



A PHONO入力がない場合



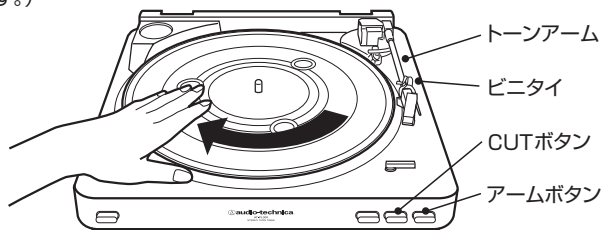
B PHONO入力がある場合



3 手でターンテーブルを10回転させる。

トーンアームを止めてあるビニタイを取り外し、アームボタンを押してアームを上げます。手でターンテーブルをゆっくり矢印の方向に10回転させます。

※トーンアームが動くことがありますのでご注意ください。
(ベルトのゆがみをなくし、ターンテーブル中央になめらかに掛かるようにするための作業です。)



4 電源プラグをACコンセントに差し込む

電源プラグをACコンセントに差し込みます。

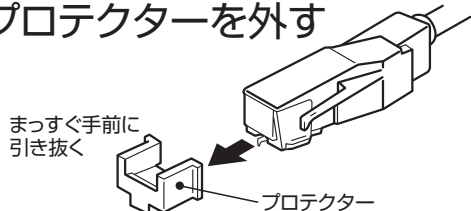


※カートリッジのプロテクターは外さずに、電源プラグをACコンセントに差し込みます。もしターンテーブルが回転した場合は、トーンアームには触れずにCUTボタンを押し、トーンアームが元の位置に戻るまでお待ちください。

●本製品に電源スイッチはありません。使用していないときも待機電流が流れていますので、長時間ご使用にならないときは、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

自動演奏

1 カートリッジの プロテクターを外す

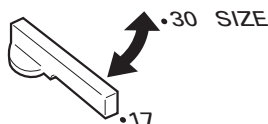


下方方向に力が加わると、針が本体より外れてしまう場合があります。針が外れた場合や外れかかっている場合は小さな音しか出ませんので、「針交換のしかた」(P7)をご覧ください、針を正しく取り付け直してください。

2 ターンテーブルに レコード盤を載せる

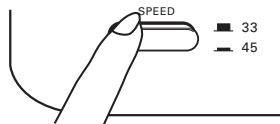


3 レコード盤の サイズを設定する



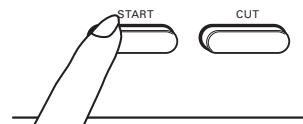
直径 30cmのLPレコード → 30
直径 17cmのEPレコード → 17

4 回転数を 設定する

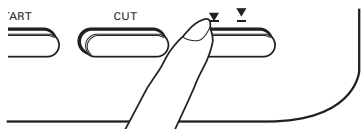


33-1/3回転レコード → 33
45回転レコード → 45

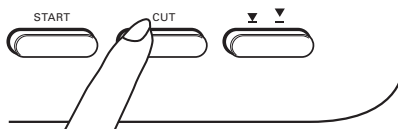
5 「START」 ボタンを押す



●演奏を中断するときは「アーム」ボタンを押してください。



●演奏を停止したいときは「CUT」ボタンを押してください。

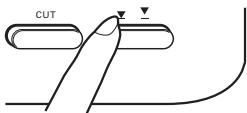


*演奏が終了するとアームは自動的にアームレストに戻ります。

マニュアル演奏

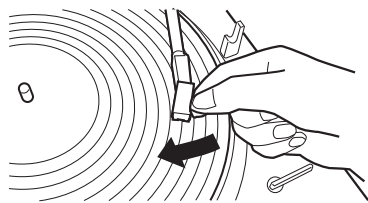
1 「アーム」ボタンを押す。

「アーム」ボタンを押すとアームレストからトーンアームが浮き上がります。



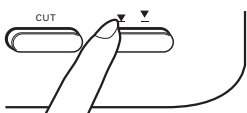
2 レコード盤に 針先を移動させる

上記自動演奏の手順①～④を行った後、レコード盤の聴きたい場所にトーンアームを移動するとターンテーブルが自動的に回転します。



3 「アーム」ボタンを押す。

「アーム」ボタンを押すと針が下がって演奏が開始されます。



※「START」ボタンを押すか、トーンアームをターンテーブル上に移動すると自動的に電源が入ります。トーンアームをアームレストに戻すと自動的に電源が切れます。

使用上の注意

- ターンテーブル回転中にアームを中心に近づけると、アームはアームレストに戻ろうとしますが、これを無理に止めないでください。故障の原因となります。アームがアームレストに戻らないときは、「CUT」ボタンを押すと自動的に戻ります。
- ターンテーブルシートが汚れているとレコード盤に傷がつきやすくなりますので、ときどきターンテーブルシートを外して、ホコリなどを払ってください。
- 使用後は、レコード盤の傷つきやソリを防止するため、レコード盤を外してください。
- ディスクスタビライザーは使用しないでください。
- 付属品以外のターンテーブルシートは使用しないでください。
- 本製品はDJ用ではありません。演奏中のターンテーブルには触れないでください。

針交換のしかた

カートリッジの針先が摩耗すると音質が悪くなるばかりではなく、レコード盤を傷める原因となります。再生時間300～500時間を目安に交換してください。

以下の作業を行なう場合は、ヘッドシェルとカートリッジ本体をしっかりと持ちください。

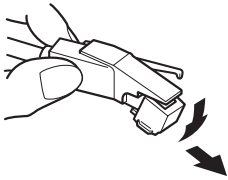
※針交換を行なう前に、必ず接続している機器の電源を切り、本製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。

使用上の注意

- 針先に指で触れたり、衝撃を与えないでください。
- お客様の不注意及び外部要因による針折れなどは、保証の対象外となりますのでご注意ください。

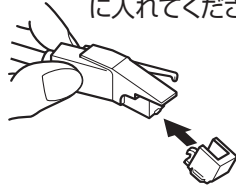
取り外しかた

ノブの先端を回転させるように、手前下向きに押し下げてください。

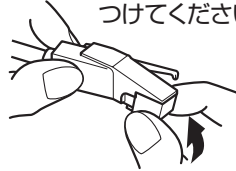


取り付けかた

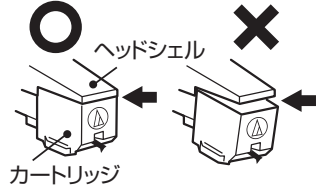
1 斜め下方から、ノブの上がった部分をヘッドシェルの裏側にあるくぼみに入れてください。



2 差し込み部分を支点として、カチッという音が出るころまでノブの先端部を上方向に押しつけてください。



3 ヘッドシェルとカートリッジに隙間がないことを確かめください。



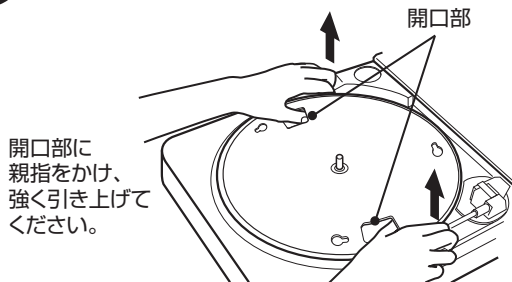
ベルト交換のしかた

ベルトは消耗品です。再生速度が遅くなったり、回転ムラが発生した場合はベルトを交換してください。

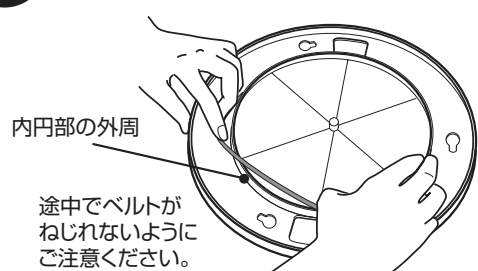
1年を目安に交換することをおすすめします。

※ベルト交換を行なう前に、必ず接続している機器の電源を切り、本製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。

1 本体からターンテーブルを取り外し、古いベルトを取り除きます。



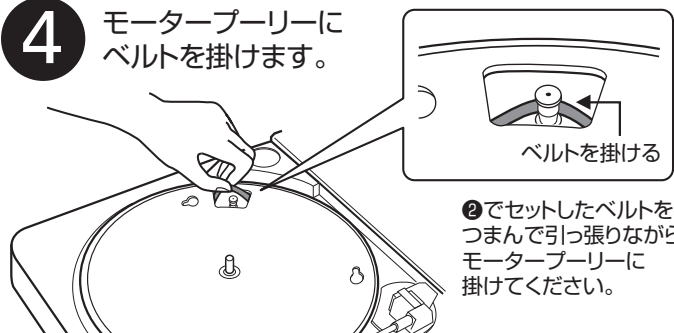
2 ターンテーブルを裏返し、内円部の外周にベルトを掛けます。



3 ターンテーブルを本体にはめ込みます。



4 モータープーリーにベルトを掛けます。



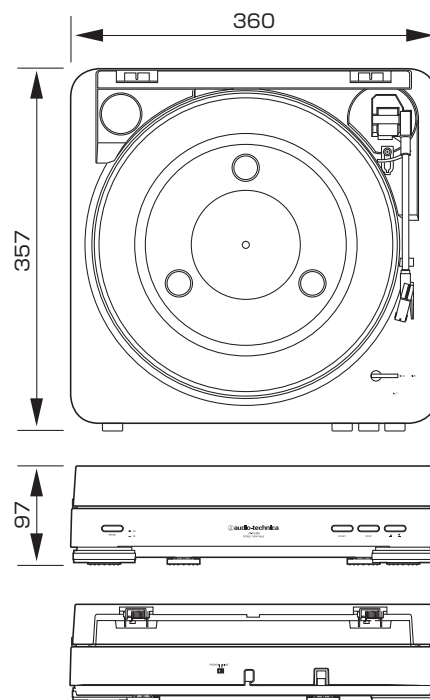
故障かな?と思ったら

本製品の調子がおかしく故障かな?と思ったら、修理に出す前に以下の項目をチェックしてください。
 チェックしても正常に動作しない場合、お買い上げ店または当社相談窓口(9ページに記載)にお問い合わせください。

症 状	原 因	処置方法
ターンテーブルが 回転しない	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグがコンセントから外れている。…………▶ ●ベルトがターンテーブルから外れている。…………▶ ●ベルトがモータープーリーに掛けられていない。……▶ ●ベルトが切れている。…………▶ 	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグをコンセントに差し込んでください。(P5) ●ベルトをターンテーブルに掛けてください。(P7) ●ベルトをモータープーリーに掛けてください。(P7) ●ベルトを新品に交換してください。
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ●ピンコードが外れている。…………▶ ●カートリッジの針先がきちんとはまっていない。……▶ ●接続機器(アンプなど)の操作が不完全。 ●PHONO/LINE切換スイッチが合っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●接続プラグをしっかり差し込んでください。 ●針先をしっかりはめ込んでください。(P7) ●接続機器の取扱説明書をよく読み、操作のしかたを確認してください。 ●取扱説明書をよく読みスイッチをあわせてください。(P5)
音が小さい	<ul style="list-style-type: none"> ●接続機器(アンプなど)の入力感度が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●接続機器(アンプなど)を入力感度の大きいものに交換してください。
雑音が出る	<ul style="list-style-type: none"> ●レコード盤にホコリやゴミが付着している。 ●レコード盤にソリや傷がある。 ●カートリッジの針先にホコリやゴミが付着している。……▶ ●本製品の近くに電灯線や蛍光灯、携帯電話など ……▶ 電波の発生源がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●レコード盤をレコードクリーナーなどできれいにしてください。 ●レコード盤をソリや傷のないものに交換してください。 ●針先をクリーナーなどできれいにしてください。 ●電波の発生源を本製品から遠ざけてください。
アームが飛ぶ または前進しない	<ul style="list-style-type: none"> ●本製品の設置場所が水平ではない。…………▶ ●レコード盤が非常に汚れているか大きな傷が ……▶ 付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本製品を水平な場所に設置し直してください。 ●レコード盤をクリーナーなどできれいにするか、傷のないレコード盤に交換してください。
再生速度が遅くなる または回転ムラがある	<ul style="list-style-type: none"> ●ベルトが伸びた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ベルトを新品に交換してください。(P7)

テクニカルデータ

駆動方式	ベルトドライブ
駆動モーター	DCサーボ
回転数	33/45回転
ワウフラッター	0.25%(WRMS)
S/N比	45dB
カートリッジ形式	VM型ステレオカートリッジ
出力電圧	2.5mV(1kHz5cm/sec.)/200mV(SW.ON)
電源	AC100V、50/60Hz両用
消費電力	3W
外形寸法	W360×H97×D357mm
質量	2.7kg
付属品	変換ケーブル (0.17m/Φ3.5mmステレオミニプラグ⇄ステレオピンプラグ)、 EPアダプター
交換針	ATN3600L
交換ベルト	AT-PL300用ベルト



単位 (mm)

(改良などのため予告なく変更することがあります。)

◎アフターサービスおよびお問い合わせ先

アフターサービスについて

本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間・規定により無料修理をさせていただきます。
お買い上げ際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。

お問い合わせ先 (電話受付/平日9:00~17:30)

本体のお問い合わせや故障・修理のご相談は、お買い上げのお店または当社窓口及びホームページの「サポート」までお願いします。

●相談窓口(お問い合わせ) ☎ 0120-773-417

(携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0211)
FAX: 042-739-9120 Eメール: support@audio-technica.co.jp

●サービスセンター(故障・修理) ☎ 0120-887-416

(携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0212)
FAX: 042-739-9120 Eメール: servicecenter@audio-technica.co.jp

株式会社オーディオテクニカ

〒194-8666 東京都町田市西成瀬2-46-1
www.audio-technica.co.jp

102405373-01-02 ver.1 2009.08.15
ver.2 2017.09.01